

株式会社放電精密加工研究所 2026 年 2 月期決算説明会 質疑応答

開催日 2026 年 4 月 16 日

回答者 代表取締役社長村田力、執行役員経理部長中山敦

質問①2026 年 2 月期の下期業績について

司会者

2026 年 2 月期の下期業績について質問します。当初、上期対比で 1 億円の減収、4 億円の減益と見込まれていた認識ですが、上振れした要因を具体的に教えてください。

村田

2025 年 10 月の修正計画ではガスタービン部品の生産ラインの立上げに伴う生産量の減少と機械装置の売上減少を見込んでおりました。しかし、第 4 四半期に入りまして、防衛装備品の需要が予想を大きく上回り増収となりました。また、営業利益につきましては、ガスタービン部品の増員や既存設備の定期修繕、さらに本社側での情報セキュリティ費用などを見込んでおりましたが、ガスタービンの立上げ費用の一部延期や本社経費の一部未実施が増益要因となりました。

質問②中東情勢緊迫化の影響について-1

司会者

中東情勢の緊迫化に伴い、現時点で御社の生産ラインにおける稼働状況や、サプライチェーンに問題は発生していませんでしょうか。
また、各事業への影響をどのように見えていますか、その影響による業績への影響はどのように見えておりますか。

村田

現時点での生産ラインの影響につきましては、調達面で、一部の揮発性塗料やシンナーといった副資材において、原料供給の停滞による入手困難なケースが発生し始めています。これらについては代替品の活用を進めており、現時点での生産活動への影響は軽微に留まっております。引き続き供給網のモニタリングを強化し、安定生産の維持に努めてまいります。各事業への影響ですが、住宅・自動車・航空機エンジンは、素材の調達難や燃料費の高騰による需要の低下などで、当社へも何らかの影響が出てくるものと見えております。一方、防衛装備品は安全保障に係る国の予算に準じていることから、大きな変化はないものとみております。また、ガスタービン部品や遠心圧縮機は、AI の普及に伴う電力需要の高まりが、中期的に拡大していることから、大きな落ち込みはないものとみております。そして、今期業績への影響ですが、現在主要事業においては半年程度の受注残を抱えております。よって、生産性に関わる間接的な影響は出るものの、上期は大きな落ち込みもなく進むの

ではないかと見てます。しかし、この状態が長期化した場合は第2四半期以降から何らかの影響が出てくると考えます。どの程度の影響になるか見えてはおりませんが、公表すべき重大な影響が見込まれる場合は、速やかに開示いたします。

質問③2027年2月期上期の計画について

司会者

2027年2月期計画の上期における営業減益要因について教えてください

村田

2026年2月期の上期には、ガスタービン部品においてスポット的な需要がございました。

2027年2月期の上期は、その点において営業利益が若干減益となる見通しとなっております。

質問④2027年2月期の販管費増加について

司会者

資料29ページの2027年2月期の販管費増加の項目について、それぞれの金額のイメージを教えてください。

村田

金額的には、それぞれ1億円程度見込んでおります。

質問⑤中東情勢緊迫化の影響について-2

司会者

現在、サプライヤから部材などの調達遅れは出てきていますか？

顧客からの先行発注は出てきていますか？

村田

サプライヤから部材などの調達につきましては、先ほどのご質問（質問②）でお答しております。若干の影響が出始めております。

また、顧客からの先行発注につきましては、現在はそのような動きは見られません。

ただ、当社の受注残としては増加傾向にあります。

質問⑥航空機エンジンやガスタービン部品の新たな加工部品について

司会者

航空機エンジンやガスタービン部品の加工において、従来の加工部品以外に新たに放電加工で加工する部品は出てきていますか？

村田

放電加工に限らず、各アイテムそれぞれにおいて受注は増加傾向にあります。

質問⑦2027年2月期の設備投資計画について

司会者

ガスタービン部品について、前期に10数億円の大型投資を行いました、今期も主な投資案件で同部品の生産能力増強を掲げています。今期の投資はどのようなものでしょうか。

村田

2027年2月期においても投資額としては、前期並みを見込んでおります。ただし、投資の目的は、全社における設備の更新が中心となります。

質問⑧航空・宇宙ならびに環境・エネルギー分野の成長イメージについて

司会者

2024年2月期から2027年2月期に売上が航空・宇宙分野は約2.1倍、環境・エネルギー分野は約1.4倍になりましたが、2027年2月期から2030年2月期においても同様に成長するような需要がありそうですか。

村田

航空・宇宙ならびに環境・エネルギー分野の売上の増加の要因は、航空・宇宙分野は航空需要・防衛装備品、環境・エネルギー分野はAIの普及に伴う電力需要の増加によるものです。

これら需要にどのように対応するかは、当社の顧客が調整を行っております。

顧客と協議しながら、次期中期経営計画の数値としてまとめていきたいと考えております。

質問⑨航空機エンジン部品の新規アイテムについて

司会者

航空機エンジン部品の新規アイテムについて、具体的に教えて下さい。

村田

当社が携わっている航空機エンジン部品は、複通路型のいわゆる大型の航空機に使う航空機エンジン部品です。特に今、燃焼器圧縮機部品ならびに低圧タービンを中心に生産しております。今後は、新たに従来と異なる航空機エンジン部品の低圧タービンにも携わる予定でおります。

質問⑩中東情勢緊迫化の影響について-3

司会者

工作機械の加工時に使用される潤滑油不足が一部で指摘されつつありますが、御社では同じような懸念はございますでしょうか。

村田

当社の場合は放電加工に使う油が石油から作られています。現段階では影響は出ておりませんが、価格の高騰は進んでおります。中東情勢の緊迫化が長期的に続くようでしたら、そういった面で当社へも影響が出てくるのではないかと見ております。

質問⑪2027年2月期業績予想（親会社株主に帰属する当期純利益）について

司会

2027年2月期の利益の調整額は大きく増えているが、背景は何でしょうか？

中山

本件は法人税等の調整額に関するご質問であると理解し、お答えします。

こちらにつきましては、欠損金の補填による税負担の軽減や賃上げ促進税制が使用出来たことが税金を下げた背景となっております。

質問⑫2027年2月期業績予想について

司会

2027年2月期は中計を上回る着地計画となっておりますが、要因について教えてください。

村田

現在の追い風事業、その中でも航空機エンジン部品や防衛装備品が、現中期経営計画の策定時の想定を大きく上回っている状況でございます。こういった受注環境から2027年2月期の計画を策定いたしました。

質問⑬2027年2月期計画のガスタービン部品の伸び率について

司会

ガスタービンは好調ということですが、2026年2月期と2027年2月期計画のガスタービン部品の伸び率はどのくらいでしょうか？

村田

2026年2月期のガスタービン部品事業は、投資のステップでした。2027年2月期につきましては、段階的に量産フェーズ移行し、2027年2月期の後半から収益に貢献してくる予定であります。そういったことから、2027年2月期計画のガスタービン部品の伸び率は10%強くらいを見込んでおります。

質問⑭放電加工・表面処理セグメントの2030年2期の営業利益率イメージ

司会

放電加工・表面処理セグメントの2030年2期の営業利益率は25%ぐらにならないかと考えていますが、航空機エンジン部門では増産投資がまだ続くフェーズのため難しいですか。

村田

放電加工・表面処理セグメントの営業利益率は2026年2月期で20%強となっておりますので、横ばいまたはそれを若干上回る程度を考えております。

質問⑮価格転嫁に対する考え方について

司会

原材料価格高騰した場合、価格転嫁に対する考えを教えてください。

村田

当社は、原材料・燃料等のコスト変動が大きい局面においては、価格改定について適切なタイミングで協議させていただく必要があると考えております。

足元では、一部の調達品において従来比で倍以上という大幅な価格上昇が見られており、対応が遅れると当社の収益を圧迫し、安定供給や品質維持にも影響を及ぼす可能性があります。

そのため当社としては、お客様と丁寧に協議し、合理的な範囲での価格改定をお願いしていきたいと考えております。同時に、社内の生産性向上やコスト削減などの自助努力にも努めてまいります。

以上